

## 治療に苦慮する象皮様の慢性皮膚炎に対するステロイド外用パルス療法

### - - - - MMD 療法の紹介 - - - -

犬アトピー性皮膚炎などのそう痒性皮膚疾患を基礎疾患として、膿皮症とマラセチア皮膚炎が続発します。この続発性皮膚炎に対する治療の反応性が年々悪くなって、とうとう“象”の皮膚になってしまった患者犬を経験したことはありませんか？



2011年の暮れから、日本獣医生命科学大学で治療を開始した、ステロイド外用パルス療法を紹介いたします。上記に掲げたのは、ラブラドル・レトリバー、5歳齢の避妊メスです。この患者犬が激しい痒みを示しており、自傷が激しい様子が顔の症状からも分かります。プレドニゾロン 0.5mg/kg SID で服用しているに関わらず、この状態なのです。このような“象の皮膚”をしたステロイドやシクロスポリンの服用治療に反応が乏しい症状の患者犬に適応のが、これから紹介する“MMD療法”です。

MMD療法こと、ステロイド外用パルス療法の要点は、週1回病変部(皮疹部)に **very strong** 以上の外用ステロイド剤を塗布することです。これにより劇的に改善いたします。

MMD療法開始から、2ヶ月後の症状を下記に掲げております。さすがに色素沈着は完全に取れていませんが、明らかに“象”から“犬”の皮膚に戻っています。1カ月もすると痒みは劇的に改善して、飼主さまの喜びようは文章に現わしきれません。



MMD 療法の内容を説明する前に、名称の由来をご紹介します。MMD は治療に使用する製品の頭文字(アルファベット)から名付けました。最初の M は、モメタオティック (MSD アニマルケア)、次の M は、マラセブシャンプー (キリカン洋行)、最後の D はダームワン (ビルバック) です。荒井延明先生 (スペクトラムラボ・ジャパン) に名付けていただきました。ダームワンの保湿剤を使用することを勧めても頂きました。紙上にて厚く謝意を表する次第です。

治療プロトコールは、

①モメタオティックの塗布、および3時間の静置をします。

塗布した外用剤を舐めないようにカラーなどを装着して半日入院していただきます。

②マラセブシャンプーを使用して、外用剤を洗い流します。

マラセブシャンプーを使用するのは、マラセチア皮膚炎の患者が多いためです。

**③患者犬のドライ後に、ダームワンを患部に塗布します。**

慢性皮膚炎のため、シャンプー後に非常に痒がります。シャンプー剤で脱脂された皮膚に皮脂成分を補充することで、バリア機能を高めてシャンプー後のかゆみにも対応する目的です。

今回は、治療方法を詳しく説明する予定です。お楽しみに。

治療前の MMD 療法を行ったラブラドルレトリバーの局所の皮膚



治療後の皮膚の局所の症状（写真の都合上、3ヶ月後の症状です）

